

24th
秋活動
感想文集



24期
横浜地区カラーチーム



memory of autumn

はじめに



「第24期カラーチーム秋活動感想文集」発刊にあたって

カラーチーム隊長
吉岡 良一

三指

スカウトの成長を願いカラーチームのため多大なるご支援を頂きました保護者様、原隊指導者、地区役員、練習中お世話になりました地域の皆様、カラーチームO.B.にこの場をお借りし、カラーチーム指導者を代表し厚くお礼申し上げます。

横浜地区カラーチーム24期秋活動は、第14回日本ジャンボリー参加の熱が冷めた頃に活動が始まり、10月の第26回神奈川連盟マーチングバンド・バトントワリングフェスティバル大会での招待演技また11月の横浜地区ラリーに参加し、ベンチャー12名、ローバー含む指導者で総員31名のチームでしたが、その活動で参加スカウトのさらなる成長がみられました。

特に横浜アリーナで行われた神奈川連盟マーチングバンド・バトントワリングフェスティバルは来場者数8千名の一般の方々の大会に参加出来たことは名誉なことと思います。

スカウトにとっても忘れえぬ良い思い出になったことと思います。

今後もカラーチームは、夢を追い続け新たな取り組みに挑戦しながら感動を求め活動をしたいと思っております。

今後のカラーチーム参加スカウトの成長にご期待ください。

この感想文集は、スカウトの成長を示すものです。是非ご一読くださいますようお願い申し上げます。

弥栄

秋活動概要

平成18年10月1日(日)

ゲスト演技

『神奈川県マーチングバンド・バトントワリングフェスティバル』

会場 横浜アリーナ

練習日 9月10日(日)

9月24日(日)

今年で26回目となるマーチングバンドとバトントワリングの大会です。コンクールも兼ねているので参加する団体のレベルも高く、白熱した演技を見ることもできました。私たちはコンクールではなくゲスト演技として招待され、横浜アリーナで演技を行いました。

普段とは違う、観客がほぼ全てマーチング関係者であったり会場の広さなどとても緊張する舞台でしたが、いつもとは違う感動を演技をしながら味わうことができました。

平成18年11月4日(土)

ブース運営・フロア演技

『横浜地区ラリー』

会場 岸根公園

練習日 10月15日(日)

10月22日(日)

10月29日(日)

毎年恒例の横浜地区の地区ラリーで、セレモニー前での演技とカラーチーム体験ブースの運営を行いました。

演技では、14NJで披露した「情熱大陸」と富山ドラムスカウツの曲から「INTRO」「HANABI」の二曲をお借りし全員でドラム演奏を行いました。

また、ブースではフラッグ・ドラムと分かれカブやボーイ・ビーバーたちに楽器やフラッグに触れて基本動作を体験してもらいカラーチームの楽しさを知ってもらいました。

．スカウト 感想文

カラーの秋活動

横浜第20団 中原 佑理

自分が参加した秋活動は、最初のマーチングフェスティバルだけで、最後の活動は、本番の日が文化祭と重なってしまって、参加できなかった。

しかも、マーチングフェスティバルの練習は二回あったが、二回とも行けず、自主練だけ参加した。

正直あせった。

演技のベースは夏活動の「情熱大陸」だったので大筋は分かっていたが、変わった部分ももちろんあったので、本番前の練習時間がなかったら、一人で立ち往生する羽目になっていたに違いない。

17時半、本番。緊張はジャンボリーの時ほどではなかったが、かなり緊張していたのは確かだった。本番中、左右が入れ替わる場所で対角線の人と肩が正面衝突してしまった！不幸中の幸い、倒れたりもしなかったが・・・個人的には失敗だった・・・。

でも本番が終わって、一息つけば、もうそんなことは気にならなかった。

解散した後はみんなと打ち上げにいて、飽きるまで話して帰った。

だが本番の日の集合6時、解散時間は18時、本番は最後の前、つまり17時半、拘束時間12時間。

しんどかった・・・。午後から集合でもよかったのでは・・・？



秋期活動を経て

横浜第77団 東仙 貴光

過ぎてみれば、本当にみじかく、楽しくもあれば、苦しくもあった。

それがわたしのカラーチーム。

秋期活動は、そんなカラーチームのさいごのしめくりでした。

マーチングフェスティバル。これはわたしにとっては非常に刺激的なできごとでした。はじめて、ボーイスカウトとはまったく無関係の人にフロア演技をみせることになったからです。

さまざまな不安がありました。

観衆の目は冷やかかではないのか。短い時間でまともな演技になるのか。

しかし、なんども練習を重ねると、次第に不安などがやわらぎ、興奮のようなものを覚えるようになりました。

本番では、じぶんとしても、いい演技ができたと思ったし、良い経験になったと思います。

それにしても、なにより驚いたことは、本番前の時間で、何度演技を通したことが、わからないことと、あのせまい控え室の中で、練習をしたことです。

さて、秋期活動の後半は、地区ラリーでの演技にむけたものでした。

わたしは、本番当日に学校の文化祭をひかえていて、定時までには、学校に行かなければならないという、緊張もあり、かなり不安でしたが、

さいわい、演技自体はマーチングフェスティバルとほぼ同じだし、ドラムの演技も、以前のドラム研究会でやったものだったので、多少余裕がありました。そして、今回の観衆は身内、つまりボーイスカウトだというのがなによりの余裕でした。

そして、本番は、難なくこなし、あわただしくネクタイをしめながら、私達の演技を見、よろこんでくれたスカウトたちがカラーチームに入ってくれたらなあ、というほのかな期待と、きたかぜの到来を予感しながら、わたしのカラーチームは一年の終わりをむかえたのでした。

おもえば、わたしはさまざまなことに、感謝をしなければなりません。

まずは、寒いときも暑いときも、共に練習を重ね、一緒に演技をつくってってくれた仲間達に感謝。

つぎに、私達に練習場所を提供してくれた人たちに感謝。

そして、なによりも、わたしたちを常に見守ってくれ、ときに叱り、ときには苦しみ、そして共によろこんでくれた、リーダーの方々に感謝しています。

来年もまた、最高の演技を、つくっていきたいとおもっています。

第24期カラー隊秋活動の感想 横浜第89団 芦澤 太郎

私は今年の夏、初めてのジャンボリーに参加したとき、前から見たことのあるカラーに憧れて入ったカラーの凄さに胸を打たれ、秋活動から参加しました。

最初は内心緊張していて、本当にやっていけるかどうか不安だったけど、カラーの中には友達もいたし、上班やインスト、リーダーたちもとても気さくだったのですぐにカラーの雰囲気になじむことが出来ました。

しかし、やはり途中からの参加だったので大変なところもありました。しばしば回りの人達が出来て自分だけ出来ないということがあったりして、正直あせったし、悔しかったです。でも先輩や上班が丁寧に教えてくれたので、う

まくこそいかないけど形を覚えることが出来るようになり、どんどん練習をしていくうちに段々だったけどスムーズにこなせるようになりました。

フラッグにしるドラムにしる、みんなと一丸となってやらなければたちまち崩れてしまうそれは自分にとってとても新鮮で、かつとても難しいものでした。短い練習時間ではひとつに作り上げにくいものもありました。でもみんなと団結できたから、ひとつのものにみんなで取り込むことが出来たから今期の秋活動に2回あった本番でも力を発揮することが出来たのでは？と思います。本番はやっぱ緊張しました。でもそこで自分を試す、いや、チームワークを試すことが出来たのは今でも心に残っています。

この感動を自分のみならず、まだカラーに入っていない年下のスカウトにもぜひ味あわせ、一緒にやっていきたいと思います。



秋活動感想文

横浜第103団 鶴丸 龍郎

僕は今回の秋活動の練習にはほとんど参加は出来ず、3~4回ぐらいしか上手く参加できませんでしたが、ちゃんとした活動で初めてドラムができ、よかったと思います。今回も本番で少しミスがあったけど全体的にはいい演技ができたと思います。春活動や夏の14NJにむけての練習などよりもだいぶ体が慣れ、温度も涼しいぐらいで、精神的にもリラックスして

出来たと思うし、いい活動出来たと思います。
地区ラリーで、初めてブースをやったのですが、あまり人と接するのは得意なほうではなかったし、不安な点もたくさんありました。それでも来た子供たちも楽しそうに体験しているところを見ることが出来たり、こちらとしても、カラーチームのことが少しでも伝えられたらいいなと思っていて、たぶん伝わったと思うので、結構やりがいがありました。

これで、今期の活動は完全に終わってしまいますが、最後の演技も、もう心残りはないので、いい締めになりました。



24 期秋活動を終えて 横浜第120団 吉村拓都

今期のカラーチームに参加して、まず最初がっかりしました。2年生が自分を除けば遠田しかいなかったからです。確かに夏活動の最後によねピーや小島たちが「カラーの活動はこれで最後」といつものように言っていたけれど、リーダーたちも聞き流していたし毎度のように冗談かと思ったので、本当にもう来ないと分かると残念でしたし、二人きりで一年生の上に立つのかと思うと不安がありました。正直に言えば、俺も一緒にやめればよかったなと秋活動が始まってからも一度ならず考えました。

最初の本番であるマーチングフェスティバルまで練習が2度しか出来ないと思ったときは、何を考えとるのだと思いました。2年生二人と金田や東仙、ツル(はこのときいたっけな?)はジャンボリーに出てたから変更された後半部だけ覚えなおせばよかったけれど、一年

生の大半は情熱大陸をやっていない春活動からの合流組だったので、本番の一つ前の回の練習では、演技が全然おぼつかない状態で、やはり無謀だと感じました。けれども、そんな彼らも自主練や当日の早朝練習を経て本番前最後の練習では全員が演技を修得して、本番に向け頑張っていたのには感心しました。それだけに本番で2度も演技を間違えてしまったときには年長者としての責任を感じ、すごく悔しい思いをしました。

その分、岸根公園の地区ラリーに向けては、もう後悔などしないようにこれまで以上に力を入れて練習に望みました。本番では会心の出来とはいかないまでもノーミスで終わられたし、ジャンボリー同様見ていたスカウトたちの反応もすごく良かったので満足のいくものでした。

そして、今期は2年間で始めてドラムの本番も経験しました。僕は楽器の演奏に関してそれほどセンスがあるわけでもなく、ましてシンバルなどこれまで一度も触ったことすらなかったので、ドラム研究会に行かなかったことも災いして最初は全くリズムに合わせられず、楽譜もちんぷんかんぷんでした。流石に危機感を感じたので、シンバルは使えないものの家では毎日練習しました。その甲斐あってか本番では、HANABIの方はそこそこ出来ました。しかし、INTROは出来がイマイチで観客のスカウトの反応もそんなになかったのが、心残りです。今までフラッグしかやってこなかったのが、今回は短い期間ながらもドラムの難しさや奥深さを体験できたいい機会でした。

後輩を動かさなきゃいけない辛さも今期は特に感じました。今までは先輩たちに頼ってきたので、先輩たちの感じた苦労が身に染みて感じられました。地区ラリーの活動に向けて、年長者としての責務を果たせていないことを強く感じましたし、後輩を指導せねばならないプレッシャーや先輩としての自分の未熟さを実感し、精神的にかなり苦しかったです。

最後は、僕らスカウトのために寝る間を惜しんで演技を作ったり、休みを犠牲にして来て下さったリーダーの方々に感謝したいと思います。

今年の活動を振り返って 横浜第 125 団 金田太樹

僕は今年初めてカラーチームで訓練を積み色々な友達や先輩、指導者の方と知り合い、かつ様々なイベントに参加できてとても充実した半年になったと思います。最初のクログネの合宿を今も覚えています。つらいセッションも鮮明に覚えています。しかし、その積み重ねが後々になって「大切なんだな～」と思うようになるとは考えてもみませんでした。初めての小机城址祭り、みなとみらい祭りでは、たくさんの人に観られている前で、自分本来の力を出し切ることが、いかに難しいのかを思い知らされ、勉強させられました。4年に一度のビッグなイベント、日本ジャンボリーもありました。正直な気持ち、辛かった...

けど、その苦しみのあとにあるあの観衆、団体種目としての達成感と涙...忘れることができない。豊福さんの最後の本番の直前に言ったあの一言「こんな上班につきあってくれて...ありがとう」この言葉聞いてなぜか涙が出てきたんだよ。本当に最後なんだってこのときづかされた。いろんな気持ちが心の中をよぎった。あの気持ちが自分の中の何かを変えさせた、そんな気がする...

秋の活動が始まると懐かしいメンバーがそろって、また一味違った活動が始まった。しかしそれは、受験勉強などで活動に参加できない先輩方に会えないという寂しい気持ちも混じていました。人数が少なくなったので、演技の変更などがあってチャートを覚える事が一苦労。そんなこんな忙しい日々突然現れたのが、アッシーこと芦澤太郎くん!!持ち前の明るく楽しい性格で、俺らを元気にさせてくれた。秋の最後に正メンバーになれて良かったし。僕は10月の下旬にカラーチームで学んだ団体競技の面白さを、日常で感じたいと思い、関東学院マーチグランド部に遅めの入部をしました。しかしそれは、カラーチームの最後のイベントに出られないというリスクを背負っての判断でした。それでも自分はカラーチームのメンバー、スタッフの方に「すいませんでした」

ではなく「ありがとうございます!!!」と仰いでいます。何故なら、自分が本当にやりたい事が見つけられたからです。何もかもに感謝しています。カラーチームは最高の宝です!



秋活動 横浜第 125 団 毛呂大亮

俺はジャンボリーには上班として行ったのでこの秋活動は最初の2回の練習だけ1回目の本番に挑まなきゃいけませんでしたが。しかも俺は2回目の活動は用事があったので行けなくて実際はたった一回の活動で演技を覚えなければいけませんでしたが。当然一回ですべて覚え切れるわけもなく、上班が用意してくれた自主練で演技の後半を覚えました。本番は緊張のためかミスをしてしまい他のみんなに申し訳なく思っています。

一回目がおわり、今度は二回目。絶対失敗しないと決心したけどミス。本番に弱いと思いました。

演技で一番難しかったところはウェーブ?で少しでもリズムが狂うときれいじゃなくて頭で分かっているけど体で分かっていないという感じでした。

カラーチームが終わっていつもの生活に戻ってみるとなんか土日が物足りないような感じでした。

この秋活動は反省などいろいろあったけど楽しく印象深い活動になったと思います。

今後のボーイスカウトでは秋活動と春活動の経験を活かして楽しくやっていきたいと思っています。



カラーチーム・秋活動 横浜第130団 小沼 広尚

秋活動のメインの演技もジャンボリーの時と同じく「情熱大陸」だった。周りのみんなは春活動や去年秋活動でフラッグを経験した先輩たちばかりで、自分はまったくのフラッグ初心者だったので不安も大きかった。秋にカラーに入隊した芦沢君と、時間の短い中、基礎から(まだまだ十分とはいえなかったが)しっかりと練習していった。

何より、秋活動は「人数」と「時間」が足りなかった。インストが入ってもやっと12人、それで横浜アリーナ、大ホールで演技をしなければならなかったし、何より時間が、そのフェスタ本番まで2回しか練習が取れなかった。春との大きな違いであり、そのときよりもさらに、個人での復習、やる気が必須だった。そして当日、ほかの団体に申し訳ないぐらいの時間をもらって最後まで追い込みをして本番に臨んだ。やはり普段から練習に練習を重ねているマーチングバンド、バトントワリングに熟練度、完成度、どこをとっても敵うはずがなく、悔しく思いながら賞状を受け取るのを眺めていた。退場のときの口笛の音がちょっと嬉しかったりもした。

その後にあった横浜地区ラリーでは、やっと演技がある程度慣れてきたのか、ドラムとの並行も何とかできた。カブスカウトにはなにやらプレゼントアームがとても受けていた。

ブースの運営は、人数がさらに少ない中、始めてであった山のようなカブ、ビーバーをあしらうのにてんてこ舞いで、終わったころにはへとへとだった。

しかし、これほど環境が整ったところでマーチングを学べるのはやはり貴重な経験であり、またカラーの仲間とのつながりで、さらに他団に対する広がりも持てた。

来年に向けて、体力づくり、ドラムの練習をしようと思う。特に体力づくりはフラッグの演技をきれいにさせるため(あと全然運動してないので)力を入れたい。





本文集中の誤字・脱字は全て、提出された原稿をそのまま反映させたためです。

横浜地区カラーチーム 秋活動感想文集

2006年12月16日 初版発行

発行： 横浜地区カラーチーム 隊長 吉岡 良一

編集責任者： 横浜地区カラーチーム 副長 高橋 道人

編集：

横浜地区カラーチーム

インストラクター 喜納 彬光

池田 敬人

上班

中井 佑亮



Rowan did his duty, kicking the IM out of the word IMPOSSIBLE
Any fellow who acts like that is certain to get on.



24期
横浜地区カラーチーム

24th
秋活動
感想文集

memory of autumn